

板書 ①

板書とは

板書は、授業の記録です。教師が書くものですが、時に学習者が加わることもあります。黒板は、授業の展開に

ともなう、書いたり、消したり、掲示物を留めたり、それを外したり移動させたりすることができ、学習者はそれを見ながら確認したり、考えをめぐらし発展させたりして、「学び」をつくっていきます。教室での消えてしまう音声言語は、教師がとらえて文字言語として残すことができ、学習者はそれによって学習のヒントと創造のエネルギーを得ることができます。そのように考えると板書は、教師と学習者による「学び」の協同作業の共有記録であるといえます。また、それで学ぶという意味では、学習教材と考えることもできます。したがって、教師の、板書をいかに生かして授業を進めるかという思いが、授業の成否にかかわる大切なこととなります。

計画的使用と即時的対応

とりあえず、黒板は、教室の前方にしつらえられたものとして考えることにします。側面黒板、背面黒板、可動式黒板、あるいは白板もありますが、授業で計画的に使えるのは前方のものだけといってよいでしょう。

板書計画という言葉があります。授業は、単元案・週案で具体化されていきますが、板書計画案は、一時間の授業ごとに立てられるものです。さらにこの計画案とは別に（あるいは同時並行的に、即時的対応も考えなければなりません。即時的対応とは、授業進行中に突然出現する、漢字の読み誤り、書き誤り、難しい語句などで、全体の流れとは異なりますが、学習者に立ち止まらせて意識づけ、言葉の力としてつけたいことに対応するもののことをいいます。これらは、計画的使用とは別に、その学習をするスペースをつくっておき、本時の授業の終末段階や区切りのよいところで小さな学習を行うようにします。黒板も全体の1/5ぐらいのスペースを予定するといよいでしょう。筆順などもここで教師が書いて示し、指導します。

板書はノートに直結させる

板書は学習者のノートに直結させましょう。教師と学習者の共有の記録ですから、板書とノートの中身が一致していなければなりません。板書はその授業で消えてしましますが、学習者のノートには残りますから、あとになって、「いつ」「なんの」「授業の「なに」をめぐって教師と学習者でコミュニケーションをかわすときに便利です。ですから、板書にもノートにも、

- ① いつー日時と授業の回数
 - ② なんのー単元名（単元のいくつ目かも）、または教材名
 - ③ 学習内容
- は必ず書き、板書とノートを一致させます。

板書のしかた

板書計画は、学習内容によって違ってきます。板書では、ワークシートやプリント類などの関連もきちつと提示します。

大別してパターンは二つあります。

Aの型ー「本時にやること」を示すだけのもの。

Bの型ー本時にやることを書き、授業の展開にともなう、余白に、本時の学習記録（考えたこと・発表したことなど）を、教師が、あるいは学習者と一緒に書いていくもの。

具体的には次号で示しますが、板書で注意することは次のことです。

- ① 文字の大きさ、筆圧、黒板への配置
- ② 色チョークは効果的に

黒板には、白が主、黄は大切なところに用いる。したがって、チョークの点検は授業の直前に行うこと。

- ③ 一時間の授業記録は一面に収めることが必要。「初めに書いたものを消して書く」はやらぬこと。（前大正大学教授）